

選挙を考える

- よい社会をつくるために -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

開倫塾塾長の林明夫です。新学期が始まりましたので、お子様、それから近所のお子様、学生にしっかり勉強するようにお伝え下さい。

大事なことは、学生の本分は勉強だということです。しっかり勉強すること、家に帰ってから予習、復習をしっかりするように、わからないことをはっきりさせて学校へ行き、学校の先生の授業に臨むように、これを是非皆様のお口でお伝え下さい。これがちゃんとできませんと、学校での勉強がなかなかうまくいきません。また、授業を聞くときに高校生はざわざわしてあまり話を聞かないクラスが多いので、授業を聞くときには口にチャックをして先生の顔を見ながら聞く。そういうことも大切です。特に、高校生はだれきっているようで心配です。高校生をお持ちのご家庭では、とにかく授業をちゃんと聞いて、自分で勉強して、立派な高校生活を過ごすように、皆さん是非子どもたちを教育して下さい。高等学校の教育が一番乱れているように思えます。しっかりしていないので、これはよろしく願います。

2. 選挙を考える

先週の日曜日には県会議員の選挙がありましたが、今度も市会、町会議員の選挙があります。そこで、今日は選挙についてお話させていただきます。

(1)日本はすばらしい国ですね。選挙についていえば、憲法で選挙活動の自由があります。20歳になったら選挙権を得、代表を選ぶ権利があります。25歳になったら被選挙権、つまり代表として選ばれる権利があります。また、30歳になると、参議院議員と都道府県知事の被選挙権、選ばれる権利があります。このように、日本は20歳以上の国民に選挙権、代表を選ぶ権利、25歳、場合によっては30歳以上の国民に被選挙権、代表として選ばれる権利が認められるすばらしい国であります。

(2)また、選挙の期間中は、選挙活動とりわけ言論の自由が保障されています。自由に、一所懸命に、候補者は自分の考えを述べることができます。話を聞いてよかったら自分を当選させてねという形で、有権者に訴えることが保障されています。候補者として自分で選挙に出るのはすばらしいと思います。ただ、多くの方は選挙に候補者としては出ないと思います。候補者として選挙に出ない方は、是非期間中に立ち会い演説会の会場に直接行って、候補者がどんなことを行っているか、どのような考えを持って立候補したのかを、選挙権を持つ有権者として直接確かめたほうがよいと私は考えます。選挙の投票日には必ず行って、この人に私たちの代表として国や県、市や町を任せたいというような方に、自分の考えで投票するのが、有権者としての社会的責任を果たす、すばらしい行動と私は考えます。特に、選挙の立ち会い演説会に行き直接話を聞いたり、選挙広報などをよく見ますと、その候補者がどういう育ち方をしたか、どんな考えを持って立候補したか、どのような人柄なのかがよくわかります。

もっとお勧めなのは、その選挙に出馬する何人かの候補者の立ち会い演説会に出掛け、各候補者本人から直接話を聞くことです。各候補者は、この国や県、市や町をどのようなかたちにしていきたいのかということを手細かに言ってくれると思います。この国や県、市や町の問題点は何であり、何が原因でこうなったのか、その解決のためにはどうしたらいいのかを各候補は事細かにお話になりますので、是非そのお話をお聞き下さい。私はこのように頑張ると、議員や県知事、市や町の市長・町長さんになりたい方は一所懸命にお話をして下さると思います。各候補者の立ち会い演説会に出掛けて、是非候補者から直接お話をお聞きになって、それから投票したほうが良いと私は思います。「あの人をよろしくね。」と知り合いから頼まれた場合にも、立ち会い演説会に出掛け、実際にお話を聞いて、よく確かめてから投票に行くことが大切と私は考えます。名前が良いからとか、誰かに頼まれたから投票するというよりは、実際に候補者から話を聞いてから投票に行ったほうが、自分の有権者としての責任を果たす上で大切だと思います。

(3)それから、これから選挙に立候補する方や、既に当選して議員や知事、市長、町長さんを務めている方に、有権者、納税者としていろいろなことをお願いするのもいいですが、我々も自分でできることは自分でやるのが大切と考えます。例えば、医療費や介護のための費用が膨大にふくれ上がり、国や自治体が破綻するほどとても大変なことになっているからです。病気になったら仕方ありませんが、なるべくなら自分自身で、病院にかからなくてもよい体づくり、介護のお世話にならない体づくりをすることが大切だと思います。教育についても、すべてを学校の責任にするのではなく、小さなことでもいいですから社会の一員として身近でできることをすることも大切と考えます。

(4)もっといえば、「こんなことをしたら社会がすばらしくなるよ」と社会のしくみに対して意見を表明したり、実際にその仕事を担当している人たちにアドバイスすることも大切だと思います。

そのためには、新聞を読むことが大切です。新聞には、よくないことや問題点などがたくさん載っているからです。新聞はできるだけ丹念に読んで頂いて、例えば、身近な子どもたちのためにこんなことはしないほうが良いよとか、よい事例があれば、あなたもあやかりなさいとアドバイスするなどして、家庭内での教育を充実させることが大切だと思います。さらには、自分の仕事や NPO 活動、ボランティア活動などを通じて、世界や日本、栃木県や市、町にどのように貢献できるかを考えることが大切です。仕事や NGO、NPO、ボランティア活動を通じて、国づくりや県づくり、町づくり、よい社会づくりのために、どんなに小さくてもよいから具体的な行動を起こすことはすばらしいと考えます。

3. おわりに

選挙で自分たちの代表を選ぶに当たっては、投票する前にできるだけ多くの候補者のお話を聞いて投票する。同時に、政治家や行政に、有権者、納税者として税金の配分、使い方について意見を言ったり、お願いすることも大切ですが、自分でできることは自分でやることも大切であると考えます。みんなで一丸になって、国や県や町、よい社会をつくっていくことが大切と考えます。

何はともかく、せつかくある選挙権を行使しないでは、公民としての社会的責任を果たしたことにはなりません。今度の選挙は棄権せずに行ってください。

よい社会をつくろうと大人たちみんなが一所懸命に選挙に臨んでいる姿を、子どもたちに見せることは非常によりよい社会教育になりますので、どうかよろしく願いいたします。

- 2008年8月29日加筆 -